

校長つうしん No. 3

Sapporo  
Odori

2016.6.8

鈴木恵一

風をうけて

## 旅の発見 ～ 価値はどこに宿る？



5月17日(火)～19日(木)の見学旅行(奈良-京都-大阪)は、大きな事故もなく全員がそろって無事に帰ってくることができました。

細かなことで注意される場面があったとはいえ、大過なく楽しく旅を終えることができたのは、ひとえに、引率教員の皆さんの綿密な準備とご指導のお陰であり、何より集団行動の大切さを生徒一人ひとりが自覚していたからでしょう。

さて、旅行に参加した生徒は何を感じ、何を学んだのでしょうか。

出発前に団長として「旅の効用」について綴りましたが、今回の旅は単なる物見遊山で終わらせるわけにはいきません。旅にまつわる古今東西の格言はたくさんありますが、マルセル・プルースト(フランスの作家)の言葉には含蓄があります。彼は、旅をはじめとして、異国の風景(自然、建造物)、歴史、文化(文学や芸術、慣習)などに触れる際はそれを見聞することだけに時間を浪費するのではなく、「**新しい目(ものの見方、考え方)をもつこと**」に価値を置くことが重要なのだと説いています。

旅はひとつのきっかけに過ぎません。実は、新しい視点を持つことは日常のなかでもできることなのです。ちょっと格好をつけた表現をするなら私たちはいつでもどこでも旅人になれるのです。

私たちは、毎時間の講義や日常の勉強で得た知識を知恵に深化させることが求められています。博物館や美術館訪問、農作物栽培、さらには、インターンシップ、ミツバチプロジェクト、学社融合(ちえりあ講座)、チャレンジオータム、チャレンジグルメ、まちなか職業体験、アニマドローレ、ユネスコスクール(ESD、国際交流)、いのちの学習、学校祭、プレゼン大会等々……大通高校の活動のすべてが“意味あるまなび”の機会になっているのです。

**価値は、価値を見出そうとする者のなかに宿ります。**

まもなく、2年次が宿泊研修に出かけます。寝食を共にし、他者との関係性はどうあるべきかを強く意識する機会となります。自然と親しむことを通じて、新たな視点を身につける旅人となることを願っています。

